

講演会

「東京エコシティー新たなる水の都市へ」

講師：陣内秀信先生（法政大学工学部建築学科教授）

かつて、東京は、ヴェネチアにも似た、豊かな「水の都市」でした。自然と江戸時代の初めから、土木技術を駆使して埋め立てを進めながら、水路が網目状にめぐり独特の都市空間を形成されてきました。そこには、水に親しむ人々の生活と文化が発展し、自然と共生するエコシティと言える都市づくりが展開していたのです。明治以降の近代化により、東京は「陸の都市」に完全に变化したと思われがちですが、戦後1960年代までは、水の都市としての輝きを保っていました。その後の高度成長、工業化により、東京の水辺は失われてしまいましたが、20年も経たないうちに、「水の都市」再生の動きが出て来ました。

1980年代には、ウォーターフロントのブームが到来し、ここ数年、産業、物流の場であったベイエリアに、人々が住み、交流する施設が増えています。東京以外にも、鞆の浦など、日本には優れた水の都市があります。

今回陣内先生には、かつての江戸東京の「水の都市」の魅力とともに、再び東京が魅力的な水辺空間をとりもどし、「新たな水の都市・東京」再生への展望についてお話ししていただきます。

日 時：平成18年9月13日（水）午後3時30分～17時

会 場：清水建設技術研究所 プレゼラーム

なお、講演会終了後、同会場にて陣内先生を囲んで懇親会を行います。

陣内秀信（じんないひでのぶ）法政大学工学部建築学科教授（建築史・都市史研究室）

世界の都市・居住空間を調査する：世界各地に、歴史をもった素晴らしい都市がある。その空間的な特徴がいかに形成されたか、現地でのフィールド調査を通して描き出す。特に、イタリアやスペイン、イスラーム圏の地中海都市を取り上げ、同時にまた、東京などの日本の都市に比較の視点を入れて研究し、今後のまちづくりについても考える。

1947年：福岡生まれ。東京大学大学院工学研究科博士課程終了。1973年、ヴェネチア建築大学に留学、ユネスコのローマセンターを経て、76年帰国。帰国後、東京大学助手、法政大学講師、助教授を経て現職。同大大学院エコ地域デザイン研究所所長を兼務。

主たる専門分野：日本建築史、歴史的建造物の保存・活用・修復に関する諸制度及び技術開発海外での精力的なフィールドワークを続けながら、学際的な共同研究、学会の活動を通じて内外の様々な分野の学者、芸術家と交流を持つ。

◇社会的活動：日本建築学会、建築史学会副会長、地中海学会事務局長、日伊協会常務理事、雑誌『東京人』編集委員、杉並区都市計画審議会委員

◇業績：東京の空間人類学（筑摩書房）、サントリー学芸賞、建築史学会賞、地中海学会賞、日本建築学会賞、イタリア共和国功労勲章

◇主要著書 [東京]『東京の町を読む』相模書房、『東京の空間人類学』筑摩書房、『東京エスニック伝説』プロセスアーキテクチュア、『水辺都市』朝日新聞社、『水の東京』岩波書店ほか、[イタリア]『都市のルネッサンス』中央公論社、『イタリア都市再生の論理』鹿島出版会、『都市を読むーイタリア』法政大学出版会、『ヴェネチアー水上の迷宮都市』講談社ほか、[イスラーム]『トルコ都市巡礼』プロセスアーキテクチュア、『建築論ー中庭型住宅の意味』『イスラームを学ぶ人のために』世界思想社、『イスラーム世界の都市空間』法政大学出版ほか、[中国]『中国の水辺都市』鹿島出版会ほか、[その他]『都市と人間』岩波新書、『都市の地中海』NTT出版ほか